

教授が“Intergenerational Transfer in Taiwan: New Panel Evidence”と題し、同じパネルデータを用いて台湾における成人子から親への金銭的支援には成人子の学歴と所得による影響が大きいことを報告された。中国や台湾出身の研究者を含む15名程度が参加し、活発な質疑応答がなされた。

(千年よしみ 記)

移民政策専門家会合 (SOPEMI, OECD) 参加報告

10月19日から21日にかけてフランス、パリにある OECD 本部で移民政策専門家会合 (SOPEMI) が開催され、日本政府を代表して国立社会保障・人口問題研究所から是川が参加した。移民政策専門家会合は OECD の雇用労働社会問題委員会 (ELSAC) の下に設置され、毎年6月に開催される「国際移民に関する作業部会」と並んで、毎年秋に行われるものであり、OECD 加盟国各国の移民政策に関する専門家が一堂に会し、各国の最新の情報、意見交換を行うことを目的としたものである。

会合は3日間の日程で行われ、OECD 加盟国を中心とした世界の国際人口移動の潮流について事務局より報告があった後、家族再結合、留学生、難民といった国際人口移動の主要テーマに沿って議論が行われ、各国から最新の状況について報告が行われた。是川からも最近、外国人労働者の受入れに関して見られた政策上の進展について報告を行ったところ、高い関心が寄せられた。

(是川 夕 記)

中国社会科学院人口与労働経済研究所との合同ワークショップ

2016年10月24日、中国社会科学院人口与労働経済研究所のご一行をお迎えして社人研との合同ワークショップが開催された。来所されたのは、同研究所の銭魏 (钱伟) 副所長、王橋 (王桥) 教授、王智勇教授、鄭真真 (郑真真) 教授の4名であった。合同ワークショップは原則として英語で進められたが、適宜、中国語や日本語でのやりとりも行われた。

社人研からは金子隆一副所長から歓迎の挨拶と“Welcome remark and overview of population ageing in Japan”の報告が行われ、これに続いて、“Long-term care needs and challenges in Japan” (小島克久国際関係部第2室長)、“Cross-border migration in Eastern Asia” (鈴木透人口構造研究部長)、“International migration of care personnel in Japan and Asia” (林玲子国際関係部長)といった報告が行われた。中国社会科学院からは銭魏副所長による“Introduction, current situation of aged care industry in China”の報告に続き、“Long-term care needs in China: a case of Changchun pilot practice” (王橋教授)、“China's rural-urban migration and measurement on migrants' economic integration in urban areas” (王智勇教授)、“Estimating the demand of aged care workforce in China and related issues” (鄭真真 (郑真真) 教授)といった報告が行われた。報告の後には、議論が行われた。議論では、人口高齢化、人口移動、介護政策などについて双方から活発な質疑応答が行われ、充実したワークショップとなった。

(小島克久 記)